

共生の第一は交通安全 営業用トラックの死亡事故は減少



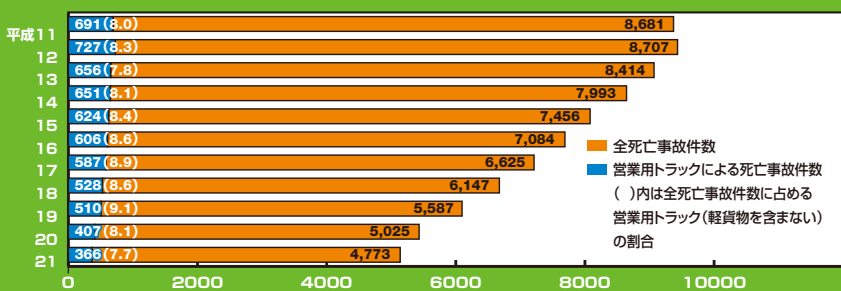
公共の道路を使用して業務を行うトラック運送業界にとって、交通安全、事故防止への取り組みは社会との共生を図るうえで最重要課題であり、年間を通じてさまざまな交通安全対策を推進しています。

国の「第8次交通安全基本計画」を踏まえ平成22年までに、営業用トラックが第1当事者となる交通事故死者数を490人以下、交通事故負傷者数を41,000人以下、交通事故件数を31,000件以下とする高い目標を掲げてさまざまな対策に取り組んだ結果、平成20年に死者数450人、負傷者数37,056人、事故件数28,838件となり、2年前倒して目標を達成しました。

目標達成のための対策として、ドライバーの安全意識と運転技能向上を図る「トラックドライバーコンテスト」の開催、運行管理者やドライバーを対象とした安全教育訓練受講費用の助成、衝突被害軽減ブレーキ、後方視野確認支援装置、ドライブレコーダーなど、安全確保のための装置導入に対するさまざまな助成を行っています。

衝突被害軽減ブレーキ衝突時の速度を時速20キロメートル低減させることで、被衝突車両の乗員の死亡事故件数が約9割減少すると試算されています。

■ 死亡事故件数の推移 (第1当事者、単位：件)



トラックドライバーコンテスト
点検競技



交通安全研修所クレフィール湖東での
安全運転研修

地球環境を守るために 低公害車の普及促進、エコドライブの実践により 大気環境は改善傾向



トラック輸送は、経済活動や市民生活を支える重要な役割を担っていますが、一方で大気汚染の原因であるNOx(窒素酸化物)やPM(粒子状物質)のほか、地球温暖化の一因となるCO₂(二酸化炭素)などの排出と密接に関係しており、その対策が急がれています。

トラック協会では、社会との共生を図りつつ、トラック運送業界の持続的発展をめざすため、業界の自主的な取り組みである環境基本行動計画を積極的に推進するとともに、地域環境保全とトラック輸送にかかわるあらゆる環境負荷の低減に努めています。

具体的な取り組みとしては、天然ガス車やハイブリッド車など低公害車のより一層の普及を図るため、国・自治体と協調し通常車両との価格差の一部を助成する助成事業を推進しています。また、トラックドライバーの休憩・荷待ちなどでのアイドリング・ストップの励行を促し、エンジン停止時に使用可能な蓄冷クーラー、蓄熱マットなどの助成、EMS(エコドライブ管理システム)機能を備えたデジタル式タコグラフに対する助成のほか、ドライバーを対象とした教育訓練施設でのエコドライブ講習を開催するなど、エコドライブの普及啓発に努めています。



エコドライブ推進ステッカー



黒煙ゼロ 天然ガス車



天然ガス車 (NGV)
シンボルマークステッカー



<http://www.hyotokyo.or.jp/>